

# 草の根・人間の安全保障無償資金協力

令和2年度  
「マンガチ県ムリブワンジ・コミュニティ病院小児科病棟建設計画」

起工式

2020年12月9日



定礎を行う池田次席（左）とカトリック・マンガチ司教区代表スティマ司教（右）



スピーチを行う池田次席（左）とスティマ司教（右）



（左）スピーチを行うジャラシ地域チーフ代表  
（右）病院内の視察を行う池田次席と関係者



(左) 喜びの踊りを披露するムリブワンジ・コミュニティ病院関係者  
 (右) 植民地時代を象徴する伝統的な踊りを披露する地域住民



地域チーフの歌や踊りに参加する池田次席 (左)

2020年12月9日、マラウイ国南部マンガチ県ムリブワンジ・コミュニティ病院にて、草の根・人間の安全保障無償資金協力「マンガチ県ムリブワンジ・コミュニティ病院小児科病棟建設計画」の起工式が行われました。式典には、カトリック・マンガチ司教区代表スティマ司教も列席し、関係者が祝辞を述べました。ムリブワンジ・コミュニティ病院は、供与された91,000米ドルを用いて、104床を備えた小児科病棟を新たに建設をします。

式典で池田次席は、マラウイ人だけでなく隣国モザンビークから医療を求めて同病院を訪れる患者にも等しく医療の提供をする奉仕の精神は、世界中の地域社会に貢献しており、このような働きを担う同病院の活動は、国連採択の「持続可能な開発ゴール (SDGs)」の条項に沿って日本政府が草の根・人間の安全保障無償支援協力を通じて実施する「誰一人取り残さない」という指針に値するとして同病院の活動を称賛しました。

池田次席はさらに、建設の品質が高ければ建設会社の評判も高まり、同時に日本政府への信頼に繋がるとして建設会社に対して高品質で強固な病棟の建設をお願いすると述べました。また、マラウイ政府および地方政府、マンガチ司教区、クリスチャン保健協会には、本案件を実施するムリブワンジ・コミュニティ病院に対する支援協力を要請しました。